

第2回 清瀬市消防団活動のあり方検討会 会議録

1 開催日時

令和6年10月3日（木）18時00分から20時00分まで

2 場所

清瀬市役所4階研修室

3 会議内容

（1）開会

（2）座長挨拶

座長による挨拶を行った。

（3）前回会議にて調査要望があった内容について

事務局から説明を行った。

（4）課題解決に向けた方策についての意見交換

①ポンプ操法審査会について

- ・現役団員、OB団員共に負担軽減のために内容を変えたいと思っている。
- ・大会の時期、大会頻度の検討が必要である。
- ・今の夏は夜も暑いことから、夜練習しても疲労が取れない。時期をずらしたい。9月初旬開催では熱中症になってしまう。
- ・練習を年間で平準化することは可能か。
- ・練習を年間で平準化することは団員のモチベーション維持が難しい。気が重くなってしまう。
- ・本質的な部分（何のために）が必要。“競技”、“結果”、“成果”を重視するのであれば短期集中が効果的であるため平準化は望ましくない。
- ・大会の意義として新入団員や若年団員の訓練として非常に適している。一方、何年も経験している団員からすると辛いと感じる。このことから、開催頻度は2年に1度、空いた年は実践訓練などの訓練に充ててもよい。
- ・7月に開催し、大会の成果を検証し11月都大会に臨むのはどうか。
- ・10月に開催してもよいのではないか。
- ・東消の審査会の流れでは、夏はない。
- ・団の年間訓練計画はあるのか。

- ・団の年間行事はあるが、訓練計画は分団毎に決めている。
- ・操法技術の練度を維持するという点では、練習を年間で平準化することもよいと思うが、不公平にならないようにする必要がある。
- ・団では季節行事になっている。練習開始が一つの節目になっている。
- ・年間で操法訓練、実践訓練、市の行事行うことはスケジュール上難しい。
- ・限られた練習時間を何に充てられるかが重要である。
- ・息子が消防団員だが、その前に社会人である。仕事でのモチベーションを上げ続けないと、消防団でも活かせない。逆も然りである。操法大会の時はイキイキしている。学生の時の体育祭ではないが、練習を年間で平準化するより凝縮した方がよいと思う。
- ・今年の大会に出動した団員に良かった点等を聞き取りしてもよい。
- ・今年からタイム減点を変更したことにより少し負担を軽減できた。

②入退団／加入促進

- ・基本的には各団の個別活動としている。
- ・操法大会は一般公開しているが、訓練は公開されていない。一般人は火災現場に来ないので消防団の活動がわからない。活動を公開してPRできる場があればよい。市の防災訓練や水防訓練は参加者の年齢層が高いため、市民まつり等でPRしてはどうか。一般に見てもらえる機会を増やせるとよい。市の既存イベントに団が便乗してもよい。
- ・消防署は先日、清瀬駅コンコースでAEDブースを出展したところ、2時間で約100人が立ち寄った。子どもを巻き込むようなPRを団で行ってはどうか。
- ・消防署にはファミリーデーがある。団でも操法大会の後に家族向けイベントを行ってもよい。
- ・消防団に入団したくても入団しない理由として、平日仕事が忙しく、加えて土日を取られると家族に迷惑をかけるためである。地域や家族を守りたくて入団するにも関わらず、入団したことで家族を守れなくなる。このことから、まずは市民にPRするより先に家族に理解してもらうことが重要である。例えば、訓練や行事の時に家族が過ごせる場所があるとよいと思う。
- ・一般向けのPRとして小中学校の校庭を借りて訓練を公開してはどうか。イベントの一部分だと埋もれてしまう。
- ・消防署は中学校の先生や小学生に出前講座したことがある。団もそのようなPR活動をしてよい。
- ・分団員定数20名についての意見を聞きたい。幽霊団員がおり、辞めた

くても辞められない団員もいる。また、任期2年もどうなのか。

- ・おそらく3班体制や、運転手要員等の体制が背景に20人定数となったのではないか。
- ・〇分団では4～5人がポンプ車を運転できる。×5人態勢で20人か。
- ・〇分団ではポンプ車を3～4人運転できが、実働部隊は少ないのが現状である。定数を15人等に減らした場合、さらに現場に行くことができる人が減ってしまう可能性がある。
- ・〇分団では3班体制にしていたが、1班4人程度では訓練が限られていた。2班体制にし、班員数を増やすと練習も充実するようになった。
- ・総数（定数）を減らすと、実働もできなくなる。

③組織のあり方

- ・独身で入団する者が多く、結婚出産し子どもが小さい頃は負担が大きい。子どもが小学校高学年くらいになると影響も少なくなる。このことから団員の勧誘を30歳前後ではなく、40歳前後をターゲットにしてもよい。
- ・団の活動に対して、団員はどの程度はフレキシブルに参加できるのか。
- ・団の活動はあくまでもボランティアであるため、最優先ではない。家族やプライベートの時間が重要と考えている。そのために早い段階で団のスケジュールは決めている。
- ・妻を活動に巻き込めばよい。子どもは妻次第である。家族ぐるみの行事があるとよいと思う。
- ・家族で娯楽施設に行くなど企画をしてもよい。他市の家族イベント、福利厚生など調べてもよい。
- ・〇分団では年齢層の幅が非常に広い。昔は役員が家族持ち、平団員は独身が多かった。今は独身よりも家族持ちが多く年齢幅も広いとため、必然的に子どもの年齢幅も広く家族イベントはどこをターゲットにするか。参加してもらえるかどうか。
- ・団員は消火活動以外に倒壊家屋の扱い等ができるのか。団員も重機などを使い活躍できなくてよいのか。
- ・消防署では11月30日は救出訓練を行う予定。資機材の使い方も覚えてもらいたい。有事の際は実働として、団にも対応してもらいたいものと署も考えている。
- ・各重機等の免許を持っている団員について消防署が知れると今後に繋がると思う。
- ・予備自衛官の資格者リストは自衛隊に共有されているので団でも可能

ではないかと思う。

- ・色々な行事に団に積極的に参加して活動をしてもらいたい、団の負担が増えるので何かを削らないといけない。
- ・誤報が多いことから、出動範囲や体制を見直してよい。見直すことで団の出動機会が減ると思う。
- ・出動範囲、体制は現状のままでよい。清瀬は市域が狭いのでどこでも行ける。このことから分散しなくてもよい。
- ・全分団が同じ考えであるならばよい。
- ・消防署の署隊が全部出動した場合、さらに全分団が出動すると別の場所で火災が起きた際、鎮火する人出が足らなくなる恐れがある。
- ・病院は誤報が多いため、詰所待機している分団もある。
- ・本団から待機の下命があってもよい。
- ・部隊運用の無線訓練の充実があってもよい。
- ・不平不満を解決できるものについて。相談窓口等があってもよい。
- ・今回の検討で方向性を示した後に、団員に情報提供しフィードバックをもらう機会を設ければ、今後団員から不満は減るのではないかと思う。
- ・本団による分団への寄り添いが必要である。副団長の担当分団を決め、副団長が担当分団訓練や点検に積極的に関与することでいい関係ができる。その結果、副団長が各分団の状況をより把握、理解することができる。

(5) その他

- ・次回日程等について事務局より報告を行って閉会となった。